

リンゴノコカクモンハマキ (別名 リンゴコカクモンハマキ)

様々な広葉樹やカラマツの葉を食べるイモムシ (幼虫)。体長最大約17mm。緑色から暗い緑色、背中に淡い斑点が並ぶ。数枚の葉を綴り合わせたり、葉の縁を折り曲げる。6月中旬頃と8月上旬頃にみられる。

リンゴ、ナシなどの果樹やバラでは害虫とされる。



1. 終齢幼虫, 体長14mm. 1989/8/8.

美唄市, シラカンバ.



2. 1の幼虫の巣, 1989/8/8.



3. 雄成虫, 体長6mm. 1を飼育.

【学名】 *Adoxophyes orana fasciata*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera), ハマキガ科 (Tortricidae), ハマキガ亜科 (Tortricinae)

【分布】 北海道, 本州, 四国, 九州.

【特徴】

幼虫は終齢で体長14~17mm。体色は変異がある。淡色の幼虫は、頭部が黄褐色、体が緑色、胸脚が暗褐色。暗色のものは、頭部が暗褐色、体が暗緑色、前胸背楯と胸脚が黒色。

淡色の幼虫はミヤマミダレモンハマキに似るが、頭楯（口のすぐ上）が白い点で区別できそうである。

【生態】

宿主：カラマツ、ヤナギ科、カバノキ科、ブナ科、ニレ科、バラ科、クワ科、モクセイ科など。

北海道では年2回発生し、若齢（2～3齢）幼虫で越冬する。越冬部位は粗皮下、小枝の分岐部などである。

北海道の低地では終齢幼虫が6月中旬と8月上中旬に採れた。幼虫は新芽や若葉を好む。成長した幼虫は葉の縁を折り曲げて巣を作る。果実の表面をかじることもある。

【被害と防除】

果樹園のリンゴ、ナシ、ウメ、スモモ、オウトウなどでは主要害虫で、防除が行われている。庭木で多発した例はないようであるが、巣をみつけたら中の幼虫を駆除する。

【文献】

1957. 江崎悌三ほか. 原色日本蛾類図鑑（上）：I-XIX, 1-318, pls 1-64. 保育社, 大阪.

1969. 一色周知監修. 原色日本蛾類幼虫図鑑（下）：I-VI, 1-237, pls 1-68. 保育社, 大阪.

1975. Yasuda, T. The Tortricinae and Sparganothinae of Japan (Lepidoptera: Tortricidae)(II). Bull. Univ. Osaka

Pref., ser. B, 27: 79-251. 1977. 奥野孝夫, 田中寛, 木村裕. 原色樹木病虫害図鑑：I-VIII, 1-365, pls 1-64. 保育社, 大阪.

1982. 井上寛ほか. 日本産蛾類大図鑑. Vol.1: 1-968; Vol. 2: 1-556, pls 1-392. 講談社, 東京.

1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場報告, 22: 85-129.

1986. 山口昭, 大竹昭郎, 編集. 果樹の病虫害, 診断と防除. 全国農村教育協会, 東京. (形態, 生態, 被害, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

リンゴノコカクモンハマキ hamaki/ringokak/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1991/4/3.

1yochu.JPG, 1yochusu.JPG, 1seichu.JPG

「写真1～3」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1989.

「写真個体の種の同定」那須義次博士, 大阪府病虫害防除所, 1993頃.